6 春祭り(年始の祭り)

(1) 元旦祭

お正月は**「家の祭り」**といわれるように、各家庭において正月神を迎えます。

正月の準備は「正月事始め」と呼ばれる12月13日頃から始まります。

正月神を迎えるため、煤(すす)払い（大掃除)を冬至までに済ませ、28日に餅つきをし、墓参りを済ませ、しめ飾りをして、山から切ってきた松、竹で門松を立てると正月を迎える準備はほぼ終わります。

正月神は歳神(農耕神)であり祖霊といわれ、五穀豊穣や子孫繁栄に深く関わり、人々に健康や幸福を授けるとされています。

▲▼松河戸戦前の正月用門松　立てる場所は座敷前、玄関は一対、井戸と便所は１本ずつ

▲松河戸戦前のしめ飾り
葉はゆずり葉（代々つづくように）

写真と図表で見る松河戸　松河戸誌研究会より

各家それぞれの特色を持った門松が飾られたのは、祖霊神のやってくる目印であり、依代(よりしろ)ともなったからです。

神社でも同様に、社殿の煤払い、境内の大掃除を行い、門松、しめ縄をし、お鏡を飾って、御神酒、甘酒にて参拝者をお迎えします。

この様に、私たちは各家庭において正月神を迎え、神社の氏神様へ初詣に出かけます。
どちらも、それぞれの神様へ感謝を捧げ、良い新年への願掛けをする行事なのですが、時代が変わっても、この様な正月行事や風習は受け継がれています。

年初めには多くの「家での祭」「神社での祭」がありますが、それぞれに深い意味が込められているようですので調べてみることとしました。

(2) 正月神と氏神様

自宅にお招きする正月神は、歳神(農耕神)であり祖霊といわれます。

歳神という豊作の神様は、大晦日の晩に各家々に門松を目印、依代に、その家のご先祖さま(祖霊)と一緒に来られて、家に幸せをもたらすと同時に、家を守ってくださる神様です。

一張羅の着物をまとい、お年玉をもらう。
正月は子どもにとって、とても楽しいひと時だ。
昭和 38 年頃　　個人蔵

自宅での正月行事は、家に来られた歳神様・祖霊に旧年の感謝をし、新年の幸を願掛けするのです。

そして、神様と一緒に食事を頂く大切な行事です。(**家での祭り**)

また初詣は、神社にみえる氏神様に新年のご挨拶をして、旧年の感謝と、新年の幸を願掛けするのです。(**神社での祭り**)

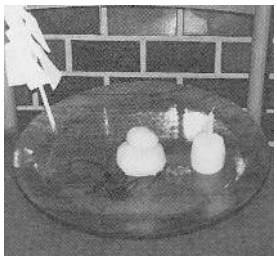
また、正月は子どもにとっても、日常から離れたとても楽しい特別な日でした。

① 家での祭り「正月神をおもてなし」

❶ 大晦日のお年越し(正月の正餐(せいさん))

正月を迎える準備がすべて整うと、「お年越し」という大晦日の夜のご馳走(正月の正餐(せいさん))を家族皆で食べます。

これは、我が国では古くは 1 日の境が日没におかれていて、祭りはその頃から未明にかけて行なわれるのが常であったためで、大晦日の暮れとともに新年の行事が始まります。



御鏡、ミカン、灯明を盆にのせて配ります。

まず、家中の神棚、仏壇そして農道具、洗面所、かまど、井戸など日ごろお世話になっている場所に御鏡、お灯明をあげてから、家族皆でご馳走を食べます。

灯明はダイコンを輪切りにして竹の串を刺しローソクを立て、盆にのせ配って回ります。

❷ 元旦のお雑煮(祖霊神と一緒に頂くお雑煮)

新年の祝い膳を一家揃って頂きます。

「おせち」には、煮豆、たつくり、かずのこなどが三段重に入れてあります。

お雑煮は、神様へお供えしたお餅、里芋などを祖霊神と一緒に頂くことです。

お雑煮を食べる箸は、柳の枝で作られており(柳箸)、両端が丸くなっているのは、一方が神様、もう一方が人間が使って一緒に食べるためで、正月の大事な行事です。

② 神社での祭り(初詣)「氏神様へご挨拶」

昭和 30 年代頃までは、一家の家長が新年が明けた早朝暗いうちに、鏡餅を持って神社の氏神に供えて初詣でを済まします。

そして家長は家に戻り、神様のお供え物を下ろし、ごった煮した「お雑煮」を神様と家族揃って一緒に食べます。

その後、家族の者が氏神様へ初詣してから寺に年頭の挨拶に行っていました。

現在は、大晦日の 10 時頃から氏子の代表者が焚き上げをして、御神酒、甘酒にて初詣の参拝者をお迎えしており、11 時頃から新年が明けた 1 時頃にかけて、個人や家族づれで賑います。

初詣の参拝者のお迎えは、氏子の代表である「総代」や「年行司」が毎年交代で行っています。

初詣は、本来は自分たちが住んでいる地域の氏神に新年の挨拶をするものですが、やがて、ご利益を求めて年神様のいる方角の社寺にお参りする「恵方参り」をしたり、有名な社寺にお参りする方も増えてきました。

③ 神社の門松

門松が立てられ、正月の準備が整えられる。
拝殿前に立ててあるが、今は、鳥居の所に立てている。
写真は平成 20 年代前半とおもわれる。

ここで、いつも問題となるのが、神社に門松を立てるのかということです。

門松は正月神をお迎えするもの、神社の中には氏神様がみえます。

別な神様である「年神様」をお迎えすることとは関係ない訳ですが、それにしても既に神様のいらっしゃるところに縁も所縁もない別の神様をお迎えするというのはおかしな話のように思います。

しかし、門松には邪気を祓うとか、結界とか、威儀を示すといった意味もあるので神社にはふさわしいそうで、門松を立てている神社も多くみかけます。

このことは、過去にも白山神社にて検討されていました。(平成 30 年 12 月長谷川松寿総代長)

その要約は「白山神社では過去に門松を立てられた事はなかったと記憶する。」

(※ただし、上記写真のように拝殿前に門松が立てられていた時期もあった。松河戸誌研究会　平成 28 年)

「今年の正月を迎えるに当たり、総代・年行司で相談して門松を立てることとする。」

「今後、門松を立てることについては、その時の神社役員にて結論を出せばよい。」

というものでした。

白山神社では、門松を立てなかった時期もありましたが、以降は鳥居の所に立てています。

④ 神社のしめ縄

「しめ縄」は、神の領域と現世を分け隔てる『結界』として、不純なものが入るのを防ぐという役目を担うものです。

家庭では、毎年新しい「しめ飾り」をして「年神様」をお迎えし、神様が居られるお正月の期間だけ飾っていますが、白山神社には氏神様が何時も居られるため、「しめ縄」を通年飾っています。

しめ縄は、毎年は新調せず古くなったら替え、紙垂(しで)だけ新しく替えています。

現在の白山神社のしめ縄
神社のしめ縄は一年中つけている。

(3) 年初の行事

① 道具の年越し(迎春行事)

農家では、土間に新しいむしろを敷き、その上に水できれいに洗った農具(鍬や備中など)を柄を組み合わせて並べ、その真ん中に鏡餅を飾って一年の労を感謝しつつ、年越しの準備をします。

また、日頃よくお世話になる洗面所、お勝手、台所(お勝手)、井戸など(それぞれの神様)にもお鏡を飾り、夜には燈明を灯し感謝の念を表します。

▲毎年12月31日には農道具を洗い鏡餅と御酒を供える

② 仕事初め(1月 2 日)

元日(1月1日)は、誰もが仕事を休み、1月2日から仕事を始めました。

農家では、「田打ち初め」といって、2日の早朝、苗代の取水口に松竹梅の小枝を立て「たつくり」と「米」を供えました。

「たつくり(田作り)」は、その昔、イワシを田んぼの肥料にしたところ大変豊作になり、田を作ることにちなみ「田作り」と呼ばれるようになったとのことです。

戦前まで「田打ち初め」はどこの農家でも行われていました。

1月 2 日に行われる「打ち初め」

子どもたちは習字の「書き初め」、小売店は「売り初め」といって1月 2 日から店を開きました。また、1月2日の夜見る夢を「初夢」と一般的に言われるようになりました。

③ 人日(じんじつ)(1月7日) 七草の節句 七草粥

「せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ」を使った七草粥を食べ て、一年間の無病息災を願います。

「人日」の由来は、中国の占う習慣から来ており、7日は「人を大切に」から来ているそうです。

④ 松の内

門松を飾っておく期間＝年神様がいらっしゃる期間となるので、これを「松の内」（一般的には 1 月 7 日まで、昔は 1 月 15 日）といい、年始の挨拶や年賀状のやりとり、初詣をするのも松の内とされています。

⑤ 鏡開き

松の内が過ぎて年神様を見送りしたら、鏡餅を食べ、その霊力を分けていただいて、1 年の無病息災を願うのです。

松河戸では 11 日に下げて、14 日のドンドで焼いて食べる習慣がありました。

⑥ どんど焼き(左義長)

1 月 14 日のドンドは、門松の煙にのって正月神が再び天に帰られる火祭です。

1 月 15 日に行われる所も多いですが、松河戸では昔から 1 月 14 日に行われています。

ただし、区画整理以前の島の時代には、新年に入って住民に忌が生じた場合には葬儀の前に行われていました。

昭和の末頃までは、庄内川の河原で行われており、松川橋の上流と下流の 2 カ所で行われていましたが、平成になってからは、東は神社の境内、西は熊野神社跡地(西ちびっこ広場)で区画整理の工事が始まるまで行われていましたが、現在は、神社の境内 1 か所で行われています。

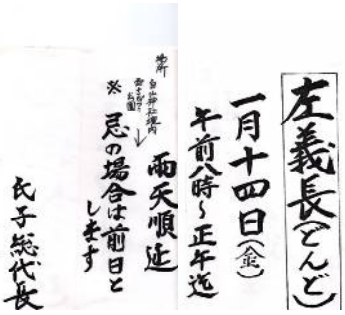
「正月のしめ飾り」、「門松」、「書き初め」など、供え物を焼き上げ、新年の祈願をささげ、門松の煙にのって正月神が再び天に帰られます。

モチを焼いて食べると一生の無病息災が、「書き初め」が天高く上がると書の上達が叶うといいます。

現在は神社の回りに家が建ち並び、どんど焼きをするにも、火の粉が高く舞い上がらない様注意が必要となってきました。

庄内川河原でのどんど焼（昭和末頃まで）

熊野神社跡地(西ちびっこ広場)での
どんど焼(区画整理前まで)



◆どんど焼

左義長(どんど)
一月十四日(金)
午前八時～正午迄
雨天順延
※忌の場合は前日とします
氏子総代長

どんど焼きの案内掲示
（平成 5 年）

写真と図形で見る松河戸　松河戸誌研究会から

⑦ 祈年祭(としごいのまつり)

祈年祭は、旧暦の２月４日(立春)に行われ、年の初めにその年の穀物の豊穣を祈る宮中に伝わる行事ですが、明治６年の改暦後は２月 17 日に行われるようになりました。

春に田の神を山から迎え，秋に再び山へ送るという農耕儀礼が，８世紀ごろから宮廷儀礼としても行われるようになったとのことです。

春の耕作始めにあたり豊作を祈る「農事祭」が起源であることから、稲作地帯であった松河戸では、今年の豊作を祈る白山神社の例祭(春祭り)として、もみ種を蒔き始める前の大切な儀式でした。

農地がなくなった今は、子どもの成長、地域の発展、安全、氏子の皆様の健康を祈願する祭礼になっています。

松河戸文化科学探求隊
隊長　長谷川 浩
080－3657-7052
松河戸町の沿革ホームページ
http://matsukawado.com/